

あなたの声を
信じてみたの

人と人つながりの物語

コーパスデリグループの

組合員数は約500万人。

組合員の皆さんの中だけ、

物語がある。その物語を

毎月一つお届けしていきます。

コーパスデリの接点。

あなたの物語はどんな物語ですか。



illustration: Maiko Dake

今から11年前。晶子さんが生後5ヶ月のコウくんを抱え信号待ちをしていましたときのこと。「そこは音声信号がない横断歩道で、普段は車の音や人の気配で判断して渡っていたんですね。その日、コーパスの商品を配達中だった児玉さんが私を見かけたんです」児玉さんは「信号、青ですよ」と晶子さんに声をかけた。

「お子さんかわいいですね、ここにこしてますよ」って私は答えました」「晶子さんは全盲なのだ。どうぞざいます」って私は答えました

私は20歳のときに、夫は7年前に全盲になりました。私が全盲としては先輩です」

中学・高校の同級生だった夫と28歳で結婚して16年。しつかり者のコウくん（10歳）と、はにかんだ笑顔がかわいいひかりちゃん（7歳）の4人家族だ。夫は会社員、晶子さんは月曜日は高校で福祉学を教え、火曜～金曜日は点字図書館に勤めている。

児玉さんは「コーパスって知っていますか？ 実は私、コーパスの配達担当として、おむつとかトイレットペーパー、買うの大変じゃないですか？」と話を始めた。まさに買い物時、大きなものを一つでも買つとあとは白杖しか持てなかつた。お米を買つ日はタクシーを使った。買い物は大変だった。

「今よろしければコーパスの宅配について説明できますが……」

児玉さんは遠慮がちに続けた。

「今の時代、知らない人は結構怖い。誰でも信用していいというわけではない。だけど晶子さんには、児玉さんの声、しゃべり方の中に伝わってきた。この人は信じられる。そう思って、自宅に招き入れ、あるまつすぐな熱意と優しさが

説明を受けてその場で加入了。利用を始めてみると、商品カタログに載る商品を読み上げるリーディングサービスがあり、「番号さえ控えておいてくださったら、私が伺ったときに注文書を書きますから」と児玉さんは言つてもう、皆同じように対応してくれた。「児玉さんの声は、いつも明るい声でした」と晶子さんは懐かしむ。

※目の不自由な方向けに、コーパスデリ宅配の商品カタログの内容を音声にしたものをお届けするサービス

5年後、晶子さんは隣町に引っ越しした。ひかりちゃんが生まれ1歳になり、育児休業から仕事を復帰した。子どもたちは別々の保育園に通つていた。

ある夕方、ひかりちゃんを抱えてコウくんが待つ保育園へ向かう途中、晶子さんは道に迷つた。

「その日は結構な雨で、傘に当たる雨の音で周りの音が聞こえなくなってしまったんです。早く迎

えに行かなくちゃって焦るほどわからなくなってしまって……」晶子さんは途方に暮れていた。そこへ配達中の児玉さんがトランクで通りがかったのだ。

「お久しぶりです。晶子さん、児玉さんは話しかけて初めて、道に迷っているのだと気付いた。そして、わかる道まで連れて行ってくれた。

コウくんが小学2年生になつたあたりから、宅配の注文書を書いてくれるようになつた。

「もっと前から書きたがつていませんでしたが、これ今日ちょっとお得だよ」とか言つてくれるようになって任せることにしました。「これもたのもうよ！」なんていふ話もしながら

子どもたちが成長し、たくさんのことを手伝つてくれるようになつた。晶子さんはときどき児玉さんのことを思い出す。

生活が変わり会う人が変わつても、誰にでも時折思い出す人がいる。誰かのささやかな思いやりが、長く人を力づけることもある。

エピソードを募集しています



応募フォーム、
Web版はこちらから。

コーパス職員との心に残る出来事を随时募集しています。氏名・電話番号・組合員コードを記入し、郵便(〒336-8526埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13 コーパスデリ連合会 コミュニケーション推進部宛)か、Web応募フォームよりお送りください。